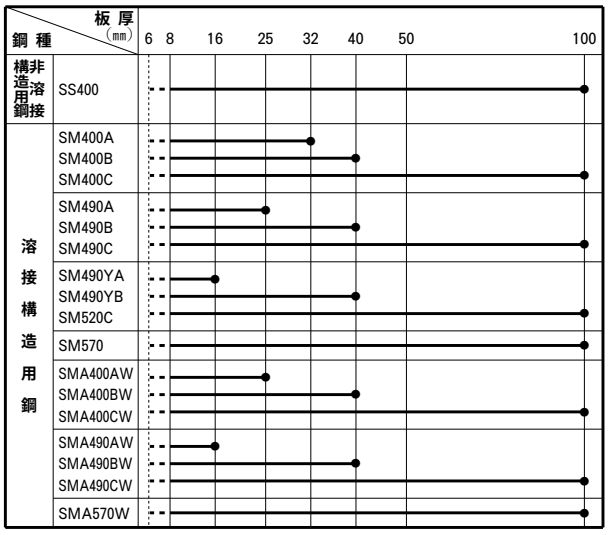
1-5 使用鋼種対比表

(1) 一般地域



注 1 ）板厚が40 mm をこえる場合は，降伏点または耐力が JIS による鋼材の他に，板厚により降伏点または耐力が変化しないことを保証された鋼材も使用することができる。

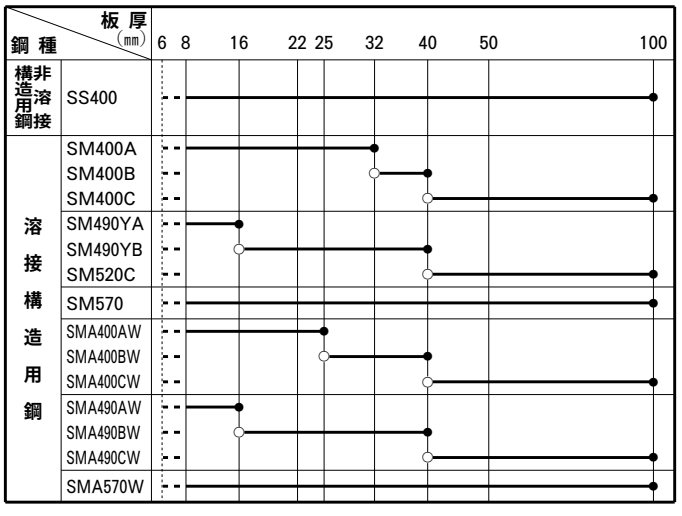
2 ）Filler PL の材質は SS400相当でよい。また耐候性鋼材の場合 SMA400AW を使用し，6 mm 未満は高耐候性鋼（SPA-H 相当）を使用するとよい。

3 ）耐候性鋼材については，JIS G 3114（1998）の改訂により，板厚51 mm～100 mm について適用が拡大されたので，この値を追加した。

(2) 寒冷地域

気温が著しく低下する地方では鋼種の選定に特別な配慮をしなければならない。

1 ）国土交通省東北地方整備局



注 1 ）SMA400材(SM400材)を用いる板厚は25 mm までとし，25 mm をこえる場合は SMA490材（SM490Y 材）とする。

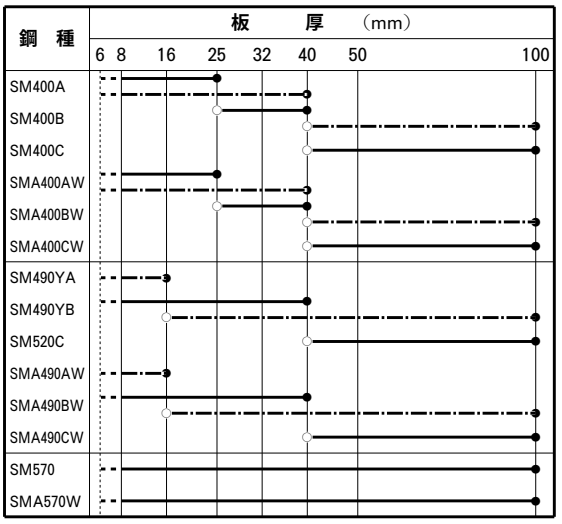
2 ）SMA570材（SM570材）は，少数主げた橋，連続げたの中間支点上，二軸応力部材のような過大な板厚となる場合に使用するものとする。

3 ）床組は，SMA400材（SM400材）・SMA490材（SM490Y 材）を使用することを原則とする。

4 ）補剛材・対傾構およびその他の部材は，SMA400材（SM400材）を使用することを原則とする。

2 ）国土交通省北海道開発局，北海道土木局

a ）最低気温が－25℃を下回らない地域

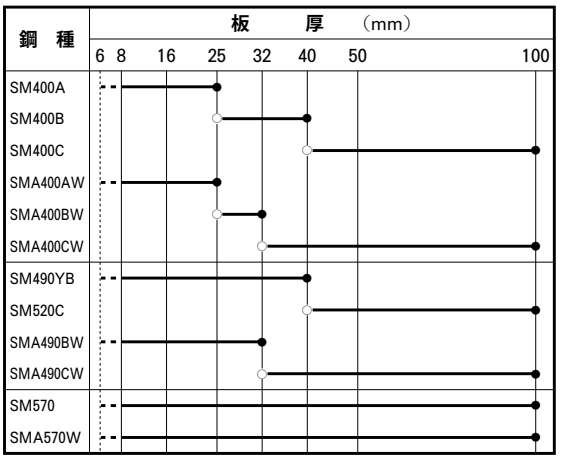


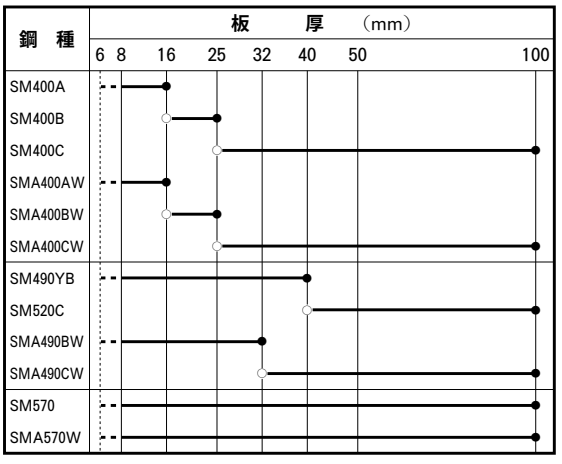
主要部材
2 次部材

注）SS400の適用は非溶接部材に限定する。

b ）最低気温が－25℃～－35℃の地域

・引張応力を受ける主要部材は下表による。
・圧縮応力を受ける主要部材および 2 次部材は a）による。



c ）最低気温が－35℃以下の地域

・引張応力を受ける主要部材は下表による。
・圧縮応力を受ける主要部材および 2 次部材は a）による。